



観光を日本経済の成長エンジンへ —「戦略実現ツール」としてのMICEがもたらす変革

観光を日本経済の戦略的な柱へ

2026年3月に第5次観光立国推進基本計画が閣議決定された。今回の大きな転換点は、観光を「日本経済に不可欠な産業」から、輸出額第2位の実態を踏まえた「日本経済をリードする戦略産業」へ明確に位置付けた点にある。観光はもはや、日本経済を牽引するフロントランナーとしての自負を持つて推進すべきフェーズに入っている。このポテンシャルを単なるレジャーにとどめず、広くビジネスや学術振興へとつなぐのが、MICE（国際会議や展示会等）である。

「戦略実現ツール」としてのMICE

MICEは開催自体が目的ではなく、国家・産業戦略のための極めて有効な「戦略実現ツール」であり、多くの学術や産業の発展を促す「場」となる。単なる集客の観点にとどまらず、産業横断的な政策ツールとして積極的に活用すべきだ。例えば東京都が主導する「Sushi Tech Tokyo」のように、官民が一体となり、スタートアップをはじめ多様な産業を巻き込む創出型継続イベントは、都市のブランド力向上と経済成長を両立させる好事例といえる。

地方創生に向けたMICEの活用

東京一極集中を回避し、地方へ誘客することは観光政策の重要テーマである。わが国には独自の文化や魅力ある都市が数多く存在する。各地の大学や研究・医療機関と自治体やコンベンションビュロー、JNTO（日本政府観光局）などが緊密に連携し、地域の特色や国際会議場、展示場、歴史的建造物（ユニークベニュー）等を活かした国際会議の誘致で、世界から著名な研究者やビジネスリーダーを呼び込んでいる。拡充された国際観光旅客税や宿泊税などの財源を各都市のMICE基盤へ長期的な視点で適切に投資していくことが、地域全体の知的交流と経済成長を生み出し、わが国の国際競争力を高める鍵となる。

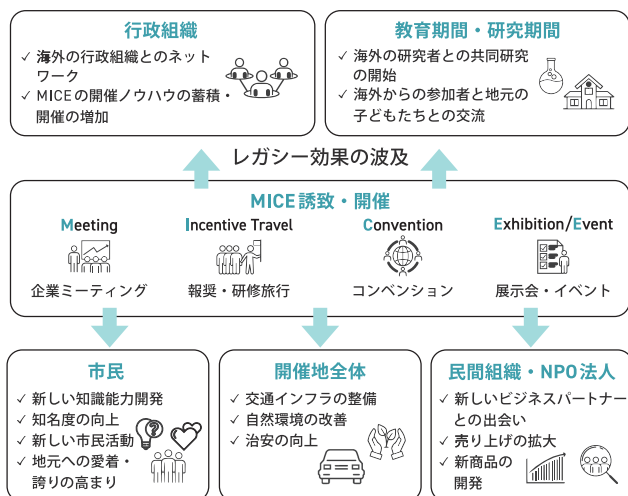
次世代の育成に資するレガシーの創出

MICEがもたらす重要なレガシーの一つは、全ての産業や学術を支える「次世代の人材育成」にある。国際的なMICEが各地で開催されることは、地元の若者や学生が国内にいながら世界最高峰の知見や現場の熱量に触れる貴重な機会となり、地域に根差した人材の成長に直結する。ここで育まれたグローバルな視野や草の根の相互理解は、国際社会における日本のステータス向上を支える力となる。

MICEを学術や産業、文化、コンテンツなど多様な分野と結び付け、日本経済を発展させる起爆剤として活用していく。この「戦略実現ツール」を国や自治体、産業界が一体となつて推進していく中で、コングレとして少しでもその支えとなる役割を果たしていきたい。

MICEによるレガシー効果

MICEの誘致・開催は、開催地に大きな経済波及効果を生み出すだけでなく、幅広いビジネス機会や研究促進等の経済波及効果以外の効果（レガシー効果）を生み出し、中長期的に好影響をもたらす。



出所：観光庁「MICEの誘致・開催の推進」2026年2月を基に作成